

# 事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

## 1. 基本情報

■事業の担当課	博物館		■担当係	博物館
■評価事業名称	見学者受入・案内事業			
■事業開始年度				
■評価事業コード	418200 - 035	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり		
	■基本施策	02 社会教育の充実		
	■施策	03 社会教育機能の充実		
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令の実施義務(自治事務)			
■法令等の名称	博物館法第3条			
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	学習、調査・研究、視察、観光等で訪れる見学者の受け入れ、案内。催し物やイベントの周知、館のPR、受付案内員の設置等。			

## 2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成30年度事業計画	平成30年度事業量実績
01	見学者受入・案内事務	市民等の来館者	本館来館者数15,000人。	本館観覧者数13,195人、和賀分館観覧者数1,760人
02	見学者受入・案内事務	受付案内員(非常勤)の配置	受付案内員 本館1人、分館3人	受付案内員 本館1人、分館3人

## 3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
直接事業費	1,865	3,949	2,630	2,553	
人件費	2,085	4,346	8,157	7,088	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	3,950	8,295	10,787	9,641	

## 4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	指標の説明
01	来館者の数	15,568人	7,002人	14,837人	14,955人	年間の来館者総数(28年度からは本館、分館の合計人数)

# 事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

02	開館1日当たりコスト				
03	年間の開館日数	240日	163日	332日	330日(本館)、 328日(分館) 年間の開館日数

## 5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

### ■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

### 達成状況の分析

来館者に適切な対応ができています。

### 問題点・課題等

受付案内職員が1人なので、休憩時間や休日に十分な対応ができない場合がある。

### 1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

### 2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

### 3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

### 4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

### 5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

### 6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

### 7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

### 8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

### 9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

### 10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

### 11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

### ■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

受付案内業務非常勤職員の1人増員。

### ■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了